

平成 25 年度事業報告書

のじぎくクラブ兵庫

(公財) 兵庫県老人クラブ連合会

平成25年度(公財)兵庫県老人クラブ連合会事業報告書

活動スローガン

“ 楽しくなる 夢中になる 笑顔になる ”

第 1 平成25年度 基本方針

少子高齢社会が急速に進み、高齢者には医療、介護、年金問題をはじめとして孤独死や交通事故、災害、悪質商法被害、小規模高齢化集落の存続・再生などの諸課題が発生している。こうした中で、高齢者一人一人の生きがいの充実を基盤に据えつつ、高齢者福祉の増進をめざす老人クラブ活動への期待は増大している。

このため、兵庫県老人クラブ連合会『のじぎくクラブ兵庫』は、平成25年4月1日に公益財団法人へ移行し、社会に開かれ信頼される老人クラブを確立し、自治会、婦人会、子ども会や社協等の関係団体と連携し、地域コミュニティを共に支えるとともに、地域の老人の健康づくりや介護予防活動の推進をはじめ、ひとり暮らし・高齢者夫婦世帯への友愛活動、地域の見守り、子育て支援等の交流活動、東日本被災地支援等のほか、交通安全、消費者被害防止、美化・環境にやさしい活動等の社会貢献活動を推進する。

また、リーダー育成研修会等によりブロック・市町老連間の交流を図り、市町老連単独では行いにくい市町老連や地域の老人クラブの諸活動を支援する。

更に、「第2次兵庫県老人クラブ会員加入促進増強運動（平成22年4月～27年3月）」を積極的に展開し、老人クラブの組織強化を図り、老人クラブへの幅広い県民の理解と協力を促すことを基本方針とし、下記の重点事業を目標とした諸活動に取り組んだ。

第 2 重点事業

- (1) 高齢者の健康づくり・生きがいつくり事業の推進
- (2) 高齢者の福祉の増進のための人材育成及び普及啓発事業の推進
- (3) 高齢者問題に関する調査・研究事業の推進
- (4) 市町老人クラブの強化育成事業の推進
- (5) 会の運営



第 3 事業報告

1 高齢者の健康づくり・生きがいくり事業の推進

今や日本は世界の中で高齢化率第 1 位 (24.1%) の超高齢社会国となっている。全国の平均寿命は男性が 79.64 歳、女性が 86.39 歳で、兵庫県は男女ともに全国平均並みである。それに対し、日常生活動作が制限されることなく、心身ともに自立した状態で生活できる期間の健康寿命は、本県では男性が 78.47 歳、女性が 83.19 歳となっている。これからは、平均寿命より健康寿命の延伸への取組みが大事であり、日頃から生活体力を養う心がけ次第で、いつまでも若々しく生きていくのか、弱々しく年老いてゆくのかどうかの分岐点が 60 代、70 代の過ごし方にあるとも言われている。このことにより、高齢者自らが健康への関心を高め、学習しながら健康の維持増進や介護予防活動、生きがいくりに積極的に取り組むことが求められるとともに、安心・安全で活力あるところ豊かな地域社会づくりの担い手としての役割は、今後ますます重要となってくる。

健康づくり・介護予防事業活動をより促進させるため、各種のリーダー養成研修会などを開催し、健康づくり推進の中核となる人材の養成に努めた。

(1) 健康づくり実践リーダー研修会の開催

健康づくり・介護予防活動をより一層推進するため、老人クラブの課題や高齢者の体・食・心など幅広く総合的な講義や実技を取り入れ、視野の広い、高度な知識や技術を習得することにより、地域の指導者として積極的に活動できる健康づくり実践リーダーを養成するための研修会を県老連、中播磨・西播磨ブロック老連との共催で、たつの市老人クラブ連合会の協力のもとに開催した。



- 開催期間 平成 25 年 8 月 23 日 (金) ~ 12 月 6 日 (金) の 6 日間
- 開催会場 たつの市福社会館・龍野体育館
- 参加者 58 名
- 研修内容
 - ・ 高齢社会の現状と高齢者の健康づくり
 - ・ 老人クラブの歴史と現状、そしてこれからの老人クラブ・頭の柔軟性を試してみる
 - ・ シニア世代の食生活
 - ・ ニュースポーツ: トリコロキューブ
 - ・ 自然と親しむウォーキング ~ 秋をさが窓 !
 - ・ 高齢者介護の現場から笑顔の発信 ~ 音楽療法を用いて心と体の健康を ~
 - ・ 認知症の正しい理解と対応
 - ・ +10 分 (プラス・テン) エクササイズ
 - ・ 高齢期の運動による健康づくり ~ 元気に歩いて健康寿命を延ばす ~
 - ・ 「笑って健康」 ~ 笑って生活習慣病・認知症予防 ~
 - ・ グループ討議 「この研修会を通して」

(2) 健康づくり・介護予防事業の推進



高齢者が健康で自立した日常生活を支えるためには、自分の基礎体力を維持しつつ、体力に応じた運動習慣を身につけ継続的に取り組む必要がある。

健康づくり・介護予防に関する知識等の普及啓発とともに、県下9ブロックの老人クラブ連絡協議会と共催の体力測定普及推進リーダーの養成研修会の開催や市町老連で行う健康づくりに関する実践活動等をより発展させるための支援を行った。

< 健康づくり・介護予防事業の開催状況 >

ブロック	開催日	開催地	参加者数	内容
阪神南	26年 3月 9日	尼崎市	127名	マグダーツ
阪神北	25年 11月 21日	三田市	31名	ロコモ予防(料理実習・実技)
東播磨	26年 2月 14日	明石市	99名	ニュースポーツ(囲碁ボール他)
北播磨	26年 1月 23日	加東市	84名	体力測定
中播磨	25年 10月 30日	市川町	199名	グラウンド・ゴルフ
西播磨	26年 2月 6日	相生市	94名	認知症予防講習会
但馬	25年 10月 23日	豊岡市	143名	グラウンド・ゴルフ
丹波	25年 7/29、10/30	篠山市	146名	栄養改善講座・ノルディックウォーキング・ニュースポーツ
淡路	25年 9月 30日	洲本市	66名	体力アップ実技・健康管理講習

(3) 第7回健康ウォークラリー講習会の開催



市町老連が行う健康づくり・介護予防活動をより発展させるため、地域で中心となり健康づくり事業を企画・推進するリーダーの養成とともに、ウォーキングを通して高年・女性・若手の三者相互のふれあいや刺激による脳の活性化、他市町老連との交流などを図ることを目的に、東播磨ブロック老連及び県老連若手委員会等の協力のもとに加古川市内で開催した。講習内容は、史跡などの観察ゾーンでの問題やチェックポイントでのゲームなど各5か所

をあらかじめ設定し、楽しみながらチームのコミュニケーションが図られるように企画し、開催した。

- 開催日 平成 25 年 11 月 8 日(金)
- 開催場所 加古川市総合福祉会館(スタート・ゴール)ほか市内
- 参加者数 37 チーム (35 市町老連) 185 名、総参加者約 250 名
- 競技結果 第 1 位 : 稲美町老連 第 2 位 : 朝来市老連 第 3 位 : 明石市高連

(4) ⑧ グラウンド・ゴルフ県大会及び交流戦の開催

高齢者の健康維持増進と会員相互の親睦を深め、日頃の成果を発揮しながら、交流の輪を広げることを目的に、県大会は県老連に所属する各市町老連選出の1チームと開催地特別枠1チーム、交流戦は会員及び60歳以上の一般高齢者の参加希望者による大会を今年度初の新規事業として第1回目を開催した。



- 開催日 平成25年10月10日(木)
- 開催場所 三木市：県立三木総合防災公園グラウンド・ゴルフ場
- 参加者数
 - ・ 県大会(団体) 38チーム(1チーム6名) 228名
 - ・ 交流戦(個人) 86名
 - ・ 総参加者数(応援、スタッフ等含め) 約440名
- 競技結果
 - ・ 県大会(団体) 優勝 上本町楽生会(西脇市)
 - 準優勝 加東市藤田(加東市)
 - 3位 尼崎市老連(尼崎市)
 - (個人) 1位 佐藤吉正(稲美町)
 - 2位 大山忠治郎(尼崎市)
 - 3位 藤原善雄(加東市)
 - ・ 交流戦 優勝 丹野喜志男(淡路市)
 - 準優勝 殿貝善男(太子町)
 - 3位 乃生須啓(芦屋市)

(5) 高齢者ニュースポーツ活動の促進

競うことより楽しむことを主とし、気軽に自由に、だれもが、いくつからでも、いつまでもできる生涯スポーツであるニュースポーツ活動により、高齢者の体力の維持増進、スポーツを通じて地域住民との交流による生きがいづくりや外出機会、社会参加の促進を目的として普及に努めた。

グラウンド・ゴルフ、マグダーツ、ペタンク、リングリングゲーム、囲碁ボール、スポーツガラッキー、ワナゲ、ノルディックウォーク、トリコロキューブなど

(6) 高齢者による地域の子どもの見守り、防犯、消費者被害・詐欺対策、美化・環境にやさしい活動、交通安全指導などの社会貢献活動の推進

地元社協や自治会等との連携を図りながら、高齢者相互の支え合いや心のふれあい、子育て支援などの各種の地域貢献活動等を展開するとともに、各種研修会や広報紙「きずな」、ホームページによる広報・情報提供などを通じて活動の普及啓発に努めた。

① 子どもの見守り活動への取り組み

学童の登下校時の交通安全の見守りと声かけや公園などで遊ぶ子どもたちとの交流や見守り活動に取り組んだ。

② 消費者被害・詐欺対策への取り組み

振り込め詐欺(オレオレ詐欺、還付金詐欺、投資詐欺等)や悪質商法などの防犯啓発活動が展開されているにもかかわらず、県下の高齢者の被害件数は依然として増加傾向の状況にあり、社会的に大きな問題となっている。25年中の振り込め詐欺の

全国の被害件数は1万2千件で、被害総額は487億円に上り、うち兵庫県は約20億円で、全国で6番目となっている。このことから、金融庁や県生活科学総合センター等のトラブルや被害防止のパンフレットなどを研修会や会議などで配付し、啓発・周知を図るとともに、ウォークラリー講習会やグラウンド・ゴルフ県大会の会場においても、県警による被害の実態や防止策等の説明、チラシ配付の場を設けるなど、機会あるごとに啓発活動を行った。また、広報紙「きずな」やホームページに掲載し、注意喚起など被害防止の普及啓発にも努めた。

③ 美化・環境にやさしい活動への取り組み

住み慣れたまちの美しく住みよいまちづくりをめざし、公園、道路、寺社等の公共的施設などにおいて、清掃、除草、樹木の剪定、花壇づくりによる花いっぱい運動や資源ごみの回収、不用品のリサイクル運動など美化・環境にやさしい活動に取り組んだ。

④ 交通事故の防止対策への取り組み

25年中の県内の人身事故件数は32,734件で、うち死者は187人、傷者は40,273人であった。死者数は、愛知県の219人に次いで全国ワースト2位となっている。また、死者数のうち65歳以上が103人(55.1%)で、全国の高齢死者数の多い順で第3位。高齢者の死者103人のうち歩行中の死者は53人(51.5%)と最も多く、次いで自動車乗車中が23人、自転車乗車中が19人となっている。春、夏、秋、年末・年始における交通事故防止運動では、「子どもと高齢者の交通安全」が運動の基本となっている。各市町老連において交通安全教室や講習会の開催とともに、地域での講習会等への参加などにより、地域の子どもたちや高齢者の交通安全意識の向上のための普及啓発や実践活動に努めた。

(7) 祖父母世代による育児や子育て支援活動、在宅福祉を支える友愛活動等による地域の安全・安心な暮らしづくりの推進

① 子育て支援活動への取り組み

少子高齢社会の進展に伴い、高齢者の生きがいづくりの一環として、地域の伝統行事や昔遊びの伝承、紙芝居、子どもたちとの餅つき大会や花・野菜づくり、スポーツ交流など祖父母世代と孫世代とのふれあい世代間交流により、健やかな子育て支援活動に取り組んだ。

② 友愛活動への取り組み

身近な隣人・友人として高齢者相互のふれあいを中心とする友愛活動は、老人クラブ発足以来永年の歴史があり、昭和61年度からは全国運動として展開してきた。

家族形態の変化や雇用形態の変化、価値観の多様化などにより人と人との関係が希薄になり、「無縁社会」とも呼ばれている今日の社会環境において、お互いの存在を認め合い、人と人とのつながり、支え合える社会の実現に向け、ひとり暮らしや寝たきり高齢者、高齢者世帯、施設入所者のお見舞訪問などにより、声かけや話し相手、見守り、安否確認、外出支援など在宅福祉を支える活動を展開し、閉じこもりや孤独死防止等に取り組むとともに、高齢者同士の心と心のふれあいや情報の交換・提供など、住み慣れた地域で安全・安心な暮らしづくりのために日常実践活動の一つとして取り組んだ。

ア 集いの場「サロン」づくり

いつでも自由に、気軽に立ち寄れ、仲間づくりや地域の人との交流により孤立

防止、外出のきっかけづくり、動くことによる心身の健康づくり、情報交換など
イ 暮らしの支え合いづくり

ひとり暮らしや高齢者世帯が暮らしの中での困りごとなどを手伝う・支え合う
生活援助(掃除、買い物代行、簡単な大工仕事、庭木の手入れ等)など

ウ 役立つ情報を届ける

ひとり暮らしや寝たきり高齢者、高齢者世帯、家に閉じこもりがちな人に対し、
医療や福祉などの各種制度やサービスに関する情報、振り込め詐欺や悪質商法等
の被害防止情報、高齢者や障害者など災害時要援護者に対する防災・減災情報等、
生活に役立つ情報の提供など

(8) 「老人の日・老人週間」、「社会奉仕の日」における実践活動の推進

「老人の日(9月15日)・老人週間(9月15～21日)」は、老人福祉についての関心と
理解を広く深めるとともに、自らの生活の向上に努める意欲と姿勢を促すために平成
14年に制定された。この制定の趣旨を踏まえ、老人クラブが展開する「健康・友愛・
奉仕」の全国三大運動を中心とした諸活動を行った。また、この老人週間を契機に、



全国一斉の「社会奉仕の日(9月20日)」を設定し、
公園、道路沿線、寺社、公共施設などの清掃、花
づくり、緑化などの美化、資源ごみの回収、不用品
のリサイクルなどの環境にやさしい活動にも、
関係団体と連携を図りながら、それぞれ地域の実
情や主体性と創意工夫により多様で活発な社会貢
献活動を展開した。

2 高齢者の福祉の増進のための人材育成及び普及啓発事業の推進

(1) 平成25年度兵庫県高齢者の集いの開催

兵庫県との共催により、第一部の式典では、高齢者特別賞をはじめ、老人クラブ育成
功労者、優良老人クラブ等の知事表彰及び県老連会長表彰・感謝と健康づくり・介護予
防活動など5つの実践活動推進の取組み
についての大会宣言を行った。第二部で
は、老人クラブによるサークル活動の成
果発表など盛りだくさんの内容で開催し、
人材育成と普及啓発を図った。

- 開催日 平成25年9月20日(金)
- 開催会場 兵庫県公館
- 参加者数 約600名
- 内 容

オープニング

- ・ 花笠おどり

第1部 式典

- ・ 知事表彰・県老連会長表彰・感謝
- ・ 大会宣言



香美町老人クラブほほえみグループ

県老連評議員・女性副委員長 児玉 ミキ子

第2部 サークル活動発表

- ・ 和太鼓 「女組ばやし」「調子早打ち」
洲本市老連民踊部すもと元気太鼓
- ・ 歌謡詞舞「魂(こころ)」「白鷺の城」
佐用町親翠流さよ姫グループ

(2) 高齢者リーダー等の養成事業の推進



高齢社会の急速な進展により、社会経済システムが大きく変化する中で、医療や介護、年金問題をはじめ、大規模自然災害被害、高齢者の交通事故の多発、振り込め詐欺や悪質商法被害、孤独死など高齢者をめぐる諸課題は多岐に亘っている。

こうした中で、健康で生きがいのある高齢者自らの自立はもとより、地域における高齢者の健康づくり・介護予防活動や友愛活動、子育て支援活動などに、知識

と経験を活用した老人クラブ活動のより一層の活性化を図るため、その活動のあり方や方策などを研修テーマの一つに取り組み、高齢者福祉の向上のための知識を深め、地域を豊かにする社会貢献活動や生きがいづくりを推進することを目的に以下のリーダー養成研修会を開催した。

① 市町老連会長研修会の開催

- 開催日 平成25年7月4日(木)～5日(金)
- 開催会場 美方郡新温泉町 佳泉郷 井づつ屋
- 参加者数 35名
- 研修内容

第1日目

- ・ 課題提起「老人クラブの活性化と組織強化」

県老連専務理事兼事務局長 塚元重範

- ・ パネルディスカッション「これからの老人クラブを考える」

コーディネーター 県老連事務局長 塚元重範

助言者 県老連会長 田中讓治

パネリスト 芦屋市老連会長 大嶋三郎

加西市老連会長 丸岡肇

相生市高連会長 下房正英

豊岡市老連会長 磯崎昭次

第2日目

- ・ 交流会「これからの老人クラブを考える」

グループに分れ、それぞれが抱えている課題を出し合い、その展望や対応策についてのフリートーク

- ・ 講演・落語 「笑う顔には福が来る」 三遊亭 楽団治

② 市町老連リーダー養成研修会の開催

- 開催日 平成 25 年 7 月 16 日(火)
- 開催会場 兵庫県民会館
- 参加者 72 名
- 研修内容



・ 課題提起

「老人クラブの現状と課題」

県老連専務理事兼事務局長 塚元 重範

・ 講演 「情熱のないところに発展はない！」

元西脇工業高校陸上競技部監督 渡辺 公二

・ パネルディスカッション

コーディネーター

兵庫県子ども会連合会事務局長 浅見 真一

パネリスト

養父市老連 林田 和雄

高砂市老連 善村 一美

県老連 塚元 重範

③ 女性・若手リーダー養成研修会の開催

老人クラブが組織的に諸活動を継続していくためには、時流に即した活動を行うための若いエネルギーと斬新な発想を持ち、行動力のある人材の確保が必要である。このため、定年退職を迎えた団塊世代をはじめとした新たな仲間の加入促進など積極的な勧誘活動に取り組むとともに、老人クラブの運営や活動の活性化のために中心的な役割を担うための女性・若手リーダーの養成研修会を開催した。



＜ 拡大ブロック女性・若手リーダー研修会 ＞

ブロック	開催日	開催場所	参加人数	内容
阪神南 阪神北	25年7月26日 (金)	三田市	44名	○課題提起 ○ニュースポーツ紹介 ・ リングリングゲーム ・ 室内ペタンク ・ トリコロキューブ ○事例発表 ・ 女性・若手委員会活動状況報告等 ○グループ討議 ・ 女性・若手委員会(部)の組織・活動について ○全体会 ・ グループ討議の結果発表、助言等
東播磨 北播磨 淡路	25年7月30日 (火)	高砂市	66名	
中播磨 西播磨	25年7月25日 (木)	たつの市	51名	
但馬 丹波	25年8月1日 (木)	朝来市	38名	

④ ブロック・市町老連事務局長・担当者研修会の開催

- 開催日 平成25年6月26日(水)
- 開催会場 兵庫県民会館
- 参加者数 33名
- 内 容

・ 課題提起「加入促進とストップ・ザ・解散について」

県老連専務理事兼事務局長 塚元重範

・ 事例発表「高年クラブ活動の活性化を目指して」

佐用町高年クラブ事務局 諏訪弘

「共に支え合い、笑顔で活動を！」

明石市高年クラブ連合会会長 谷内豊

・ グループ討議 「加入促進とストップ・ザ・解散について」

・ 全体会 グループ討議結果の発表、助言、意見交換等

(3) ふれあいの祭典 ～ ひょうご健康福祉まつり ～ への出展参加

尼崎スポーツの森(尼崎の森中央緑地)で開催された「ふれあいの祭典・阪神南ふれあいフェスティバル～ひょうご健康福祉まつり～」に、阪神南ブロック老連(尼崎市・芦屋市老連)と県老連女性・若手委員等が出展参加した。

- 期 間 平成25年11月2日(土)
～3日(日)

○ 内 容

- ・ テーマ ～ 東日本大震災支援、みんなで参加して応援しよう ～
- ・ 大震災支援チャリティーバザー、ニュースポーツ体験 スーパーボールと人形すくい、風船で動物や花を作ろうなど

- 来 訪 者 延約2,000名
- 参加スタッフ 延60名



(4) 広報紙「きずな」の発行及びホームページによる広報・情報提供

県老連、市町老連が行う研修会や大会、健康づくり・介護予防活動、子育て支援、友愛・奉仕などの地域貢献活動、ユニークな活動の取組み事例紹介などを広報紙「きずな」及びホームページに掲載するとともに、行政からの高齢者福祉関連情報、交通安全、消費者被害防止等の広報・情報提供による普及啓発にも積極的に取り組んだ。

ホームページは、簡便に更新できるソフトの導入により速報性を活かし、タイムリーな情報の発信等により広報活動の充実に努めた。

また、実施する事業の開催前に、記者発表やホームページ等を通じ広く県民への情報提供や参加呼びかけなどにも努めた。

○ 広報紙「きずな」の発行

- ・ 発行：年2回(10月、3月) 各12万部
- ・ 配布先：各市町老連、県・市町福祉行政機関、福祉関係団体、県議会、県内高齢者大学、県立図書館等

○ ホームページの充実

- ・ 更新は毎日
- ・ アクセス数は、1日 約 450 件

(5) 老人クラブ会員章の普及

老人クラブの会員意識の高揚や連帯感の醸成をより一層促進するため、平成 24 年の全老連創立 50 周年記念会員章とあわせ、「1 会員 1 個」を目標に会員章の普及を図り、老人クラブのより発展に向け、老人クラブ会員による拠金活動を行った。

普及数	種 別	25 年度	累 計
・ 会 員 章		69 個	147,350 個
・ 全老連創立 50 周年記念		90 個	1,854 個
合 計		159 個	149,204 個

3 高齢者問題に関する調査・研究事業の推進

高齢者が住み慣れたまちで毎日生活する中において、身近に抱えている課題をテーマとした調査を隔年に実施してきた。前回の 23 年度は老人クラブ会員を主な対象として、概ね 75 歳以上のひとり暮らし、又は高齢者夫婦世帯を対象に「高齢者のくらしの支え合い」のアンケート調査を行った。その調査結果をもとに検証、学習などを行い、以後、高齢者の生活の向上と改善により、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざし、日常の友愛実践活動にその調査結果を活用しながら取り組んでいる。

なお、25 年度については、下記の調査、資料を作成した。

(1) ブロック・市町老人クラブ連合会便覧の作成

各ブロック・市町老連の組織や運営、財政、活動状況等を実態調査し、可能な限り数量化し取りまとめた。今後の老人クラブ活動の活性化や会員増強のための基礎資料とすべく、各老人クラブのほか関係者、関係機関等に配付した。

作成：平成 25 年 11 月 300 部

(2) 老人クラブ関係資料集の作成

県老連事業運営の円滑な推進と老人クラブの活性化などに資することを目的に、県老連の概要や定款、事業計画をはじめ、関係法令、規程、通達等とともに、高齢者に関する全国・兵庫県の諸統計資料等もとりまとめた資料を作成し、各老人クラブのほか関係者、関係機関等に配付した。

作成：平成 25 年 6 月 300 部

(3) 単位クラブ女性会長アンケート調査の実施

会員加入促進増強運動については、各単老をはじめ、市町老連、県老連において展開しているものの、団塊世代の退職期などを迎え高齢者人口は年々増加しているにもかかわらず、クラブ数、会員数は相変わらず減少傾向の状況である。今後の会員加入促進活動や老人クラブ活動の活性化等のあり方を検討する中において、女性会員の加入増の促進はもとより、男性より女性会員が多い中で、単位クラブの女性会長の就任率が非常に低い状況にあることから、その実態を把握し、今後の会員加入促進活動等の課題検討材料の一つとして参考にするため、各市町老連の実態調査を 11 月に実施した。

25. 10. 1 現在の単位クラブ数 3,874 クラブ うち女性会長数 290 名
うち回答数 207 (回収率 71.4%)

4 老人クラブの強化育成事業の推進

(1) 老人クラブ会員加入促進活動

未加入高齢者や団塊世代に対する加入促進(第2次老人クラブ会員加入促進増強運動の4年目)及び報奨金制度活用の推進

① 老人クラブ会員加入促進活動の推進

少子高齢社会が急速に進展し、団塊世代の退職期などを迎え、元気高齢者人口の増加にもかかわらず、老人クラブのクラブ数、会員数ともに減少する傾向は、兵庫県に限らず全国的にも重要課題の一つともなっている。平成17年度から「老人クラブ会員加入促進増強運動」を5年間実施してきたが、増加に転ずるに及ばなかった。

地域における高齢者の社会的役割は今後益々重要となってくる中、特に、団塊世代の退職者の加入促進により一層取り組むとともに、未加入高齢者の老人クラブ活動への参加呼びかけ等による加入も促進するため、平成22年4月から27年3月までの5年間を、県老連と市町老連が一体となり「第2次会員加入促進増強運動推進要領“ストップ・ザ・解散とクラブの復活”」に基づき増強運動を展開してきた。

「踏み出しませんか 新しい出会いの一步」の入会勧誘リーフレットなどを活用し、老人クラブ活動の意義や魅力などの理解と認識を深めてもらうため、各市町老連から各地区の行事や自治会などへの配布や啓発活動等をはじめ、ホームページや広報紙、各種研修会などで課題として取り上げるなどにより、今後更に老人クラブの活性化や組織強化のために積極的に展開することとして取り組んだ。

○ 目標 40万人(平成22年4月~27年3月)

* 25年4月1日現在(26市12町) 3,879クラブ 229,624人
(平成25年兵庫県高齢者保健福祉関係資料による。)

<参考> 24.4.1現在(26市12町) 3,913クラブ 236,185人

② 報奨金の贈呈

報奨金贈呈規程に基づき、加入促進による仲間づくりに顕著な功績のあった下記の4市町老連に平成25年9月20日開催の「兵庫県高齢者の集い」にて、表彰と報奨金を贈呈し顕彰した。

○ 報奨金贈呈市町老連 : 高砂市、加西市、市川町、福崎町

(2) 老人クラブ加入促進資料の作成

会員及び単位クラブの減少傾向は、兵庫県に限らず全国的な重要課題の一つとなっている。「第2次老人クラブ会員加入促進増強運動推進要領」に基づく取組みにより、老人クラブの活性化や組織の強化を図ることをめざし、老人クラブの活動内容や活動の意義、魅力等をわかりやすく写真で紹介するなど、入会勧誘のための資料の一つとして活用するために作成した。

・「踏み出しませんか 新しい出会いの一步」のリーフレットの増刷

作成：平成26年2月 10,000部

・「入会お誘いクリアファイル」

作成：平成26年2月 10,000部



(3) 市町老連の活動に対する支援

① 報奨金の贈呈

報奨金贈呈規程に基づき、仲間づくりや傷害保険加入促進、重要事業の推進等に積極的な活動により顕著な功績のあった市町老連に対し顕彰することを目的とし、その報奨金は、市町老連の組織や活動の活性化の促進に活用する。(各 @ 5万円)

報奨金贈呈は、表彰規程に基づく仲間づくり賞を受賞したもの(4:再掲)

高砂市、加西市、市川町、福崎町

・老人クラブ傷害保険の加入促進に尽力したもの(4:再掲)

西脇市、小野市、養父市、洲本市

・その他、重要事業の推進に尽力したもの(5)

たつの市、三木市、加古川市、阪神南ブロック、淡路ブロック

② 地区強化費の助成

老人クラブ活動の充実により組織の活性化等を図るため、地区強化費交付基準内規に基づき助成した。(1ブロック平均18万円×9ブロック)

ブロック主催協議会・交流会の開催

〈1〉ブロック連絡協議会(各ブロック4回程度)

〈2〉女性交流会・研修会(各ブロック2回程度)

〈3〉若手交流会・研修会(各ブロック2回程度)

(4) ① 単位クラブ・市町老連活動支援事業(のじぎくクラブ兵庫助成事業)の推進

高齢社会が進展する中、地域における高齢者の担うべき役割は益々期待されている。

県老連は公益財団法人への移行に伴い、一般高齢者を巻き込んだ活動や地域づくりに視点を置いた取組みをより一層推進するため、高齢者の「スポーツ活動」「文化活動」などを通して、健康づくり・生きがいづくりに関する事業を新たに展開し、老人クラブ活動の活性化と地域の元気づくりを図ることを目的とし、平成25年度の新規事業として取り組み、市町老連、支部・地区老連・単位クラブの活動を支援した。

○ 平成25年度助成対象は下記の4団体(申請17団体中)

・加西市老人クラブ連合会「健康寿命を延ばす施策の展開」

・たつの市龍野支部老人クラブ連合会「心の財産の再生は若手委員の手で」

・豊岡市老連府市場老人クラブ「3世代交流事業」

・養父市老連八鹿町下八木老人クラブ「・買い物移送サービス・いどばた喫茶

・やぶからぼう体操」

(5) 若手委員会活動促進事業(各年10市町老連モデル指定:最終年度)

県老連は、全老連傘下の都道府県・政令指定都市の老人クラブに先駆けて平成17年4月に各ブロック代表の「若手委員会」を設置した。平成18年度から市町老連若手委員会育成補助に基づく各年10市町老連のモデル指定は平成21年度で全市町老連を終了し、全市町老連にも「若手委員会(部)」を設置した。

老人クラブ活動の活性化、組織強化を更に推進するためには、若手委員の斬新な発想を活かし、総合的かつ効果的な活動をより一層展開させる必要があり、平成22~25年度までの4年間とした市町老連若手委員活動促進事業要綱に基づき、各年度概ね10市町老連を指定することとし、若手委員が協力しながら積極的に取り組む活動の促進を支援した。

○ 平成 25 年度の 9 市町モデル老連

伊丹市、三田市、稲美町、加西市、加東市、赤穂郡、佐用町、養父市、朝来市

(6) 各種団体等との交流

① 第 42 回全国老人クラブ大会への参加

< 老人福祉法 50 周年記念・老人保健法 30 周年記念 >

○ 開催日：平成 25 年 10 月 1 日（火）～2 日（水）

○ 会 場：岩手県盛岡市 岩手県民会館ほか

○ 参加者：約 1,600 名（うち兵庫 38 名：25 名＋ふれあい交流の旅参加者 13 名）

○ 内 容

第 1 日目

活動交流部会

第 1 部会「健康づくり・介護予防活動の推進」

第 2 部会「わがクラブの活性化、加入促進プラン」

第 3 部会「女性会員による元気なクラブづくり」

パネラー 県老連副会長・女性委員長 中村美津子

第 4 部会「住みよいまちづくりへの取り組み」

第 5 部会「東日本大震災と老人クラブ」

第 2 日目

オープニング 「さんさ踊り」

被災地老連自主製作 DVD 上映「老人ク

ラブに笑顔戻る

～震災被災地のいまを伝える～

活動交流部会報告

全老連理事・事務局長 齊藤 秀樹

アトラクション 「鹿踊り」「鬼剣舞」

式 典

全国老人クラブ連合会会長表彰

・育成功労者・優良老人クラブ

・優良市町老人クラブ連合会

・永年勤続職員

大会宣言

次回第 43 回大会開催地報告

(大分県別府市)

閉 会 ・挨拶 ・歌「花は咲く」を合唱



全国老人クラブ連合会会長表彰受賞者

② 第 26 回全国健康福祉祭「ねんりんピックよさこい高知 2013」への参加

○ 期 間：平成 25 年 10 月 26 日（土）～29 日（火）のうち 25 日～28 日

○ 場 所：高知県高知市（総合開会式ほか）、佐川町（ウォークラリー）ほか

* 選手参加 23 種目を全国で約 9,000 人

○ 参加者：兵庫県選手団 134 名（うち県老連参加者はウォークラリー交流大会に 5 名と、副団長・県老連田中会長、事務局 1 名の 7 名）

○ 内 容

- ・ 総合開会式 (約 15,000 人)
- ・ ウォークラリー交流大会
(36 チーム 180 人)
- ・ 高知県の老人クラブによる伝承活動や生きがいづくり活動発表、手工芸作品等の展示などの地域文化伝承館見学等



○ 26 年度第 27 回開催：栃木県

③ 平成 25 年度近畿ブロック老人クラブリーダー研修会への参加

○ 期 間：平成 25 年 6 月 6 日 (木) ~ 7

研究討議第 3 分科会

日 (金)

○ 会 場：京都府宮津市

天橋立宮津ロイヤルホテル

○ 参加者：306 名 (うち兵庫県老連 20 名)



○ 内 容

第 1 日目

基調報告「活性化計画の総括と今後に向けて」

全老連参事 河野 敦子

研究討議 (分科会)

第 1 分科会「いきいき高齢者をめざして健康・生きがいづくり活動」

の推進」事例発表 県老連会長・播磨町シニアクラブ連合会

会長 田中 讓治

第 2 分科会「地域を豊かにする地域支え合い・友愛活動」の推進

第 3 分科会「若手高齢者の力を活かす活動」の推進

座 長 猪名川町老連 端野 久美子

第 4 分科会「一般高齢者への呼びかけ・情報発信活動」の推進

第 5 分科会「健康ウォーキング講座」と「天橋立いきいき交流ウォーキング」の実施 (主催地元老連事業)

アトラクション 「宮津踊り」

懇親会

第 2 日目

いきいきクラブ体操

講 演 「アンチエイジングのすすめ」

京都府立医科大学 学長 吉川 敏一

全体会議 グループ討議結果発表・意見交換

次回開催地あいさつ

神戸市老連 大辻理事長

④ ふれあい・交流の旅の実施

- 期 間 平成 25 年 9 月 29 日(日)～10 月 2 日(水)
- 行 先 宮城県岩沼市・気仙沼市、岩手県盛岡市ほか
- 参加者 24 名



○ 内 容

- <世界文化遺産・平泉と被災地視察交流>
- ・宮城県岩沼市の杜の里仮設住宅での訪問交流会
- ・宮城県気仙沼市老連との交流会
- ・世界文化遺産の中尊寺金色堂、小岩井牧場、八幡平等の観光
- ・全国老人クラブ大会(盛岡市)に 24 名のうち

13 名参加

⑤ その他会議研修会等への参加

- ・全老連評議員会 2 回 県老連会長出席
- ・都道府県・指定都市老連会長会議 1 回 県老連会長、事務局長出席
- ・都道府県・指定都市老連事務局長会議 2 回 事務局長出席
- ・全老連女性委員会総会(第 41・42 回)
平成 25 年 5 月 23 日、11 月 26 日 2 回 中村副会長出席
- ・第 31 回都道府県・指定都市老人クラブリーダー中央セミナー 1 名参加(役員)
- ・近畿老人クラブ協議会定例会議 3 回 延 5 名出席

⑥ 女性・若手会員のクラブ運営への積極的参画の推進

女性・若手リーダー育成のため、女性及び若手会員が積極的に全老連主催などの各種大会・研修会に参加した。

- ・近畿ブロック老人クラブリーダー研修会 平成 25 年 6 月 6～7 日 女性 11 名(55%)
- ・全国老人クラブ大会 平成 25 年 10 月 1～2 日 女性 9 名(30%)
- ・全老連第 11 期健康づくり中央セミナー 平成 25 年 11 月 20～22 日 若手 1 名
- ・全老連第 25 回女性リーダーセミナー 平成 25 年 11 月 25～26 日 女性 2 名
- ・全老連女性委員会設立 20 周年記念セレモニー 平成 25 年 11 月 25 日 女性 2 名
- ・全老連第 19 回在宅福祉を支える友愛セミナー 平成 26 年 1 月 16 日～17 日 女性 2 名

(7) 東日本大震災等の被災地県・市・町老人クラブ連合会への支援活動の取り組み

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生してから早や 3 年が経過したが、甚大な被害を受けた被災地では、復興やクラブ再建に取り組まれているものの、いまだに多くの方が仮設住宅や県内外での避難生活を余儀なくされていることなどから、大震災発生以降、県下全市町老連挙げて、義援金をはじめ、元気袋や四季折々に手づくり品等で被災地支援活動に取り組んでいる。

① 休耕田を利用した「のじぎくクラブ兵庫農園」の開園

◇ 『さつま芋も農園』

県老連の女性・若手委員は、加西市の休耕田を利用して、平成 25 年 6 月 1 日(日)に、さつま芋の苗 400 本を植え付け、10 月 13 日(日)に女性・若手委員等や子どもたちと一緒に約 450 kg のさつま芋を収穫した。そのさつま芋は、11 月 2～3 日に

尼崎市で開催された、ふれあいの祭典～ひょうご健康福祉まつり～等において、のじぎくクラブ兵庫が出店するチャリティーバザーで販売し、被災地支援に役立たせた。



◇『玉ねぎ農園』

さつま芋農園に続いて、来年の収穫に向けて平成 25 年 11 月 24 日(日)、県老連と淡路ブロックとの共催で、南あわじ市の休耕田を利用して



玉ねぎ農園を開園した。事前に南あわじ市老連の田中前女性部長が畑を整地したところに、県老連の女性・若手委員等と淡路ブロック 3 市老連の会長はじめ、役職員等約 30 名が参加して 6,000 本の苗を植え付けた。

3 月 1 日には、淡路ブロック若手委員と県老連女性・若手委員等で草引きをし、5～6 月頃に収穫し被災地支援に役立たせる。

◇『じゃがいも農園』

平成 26 年 3 月 21 日、加西市の休耕田でさつま芋に続き、じゃがいもの植え付けをした。収穫は 6 月末ごろになる予定

② 「忘れていないよ」の気持ちを伝えるため「元気うちわ」を届ける！

東日本大震災被災地の仲間を励まし、「忘れていないよ」の気持ちを少しでも伝えるため平成 25 年 6 月末から 7 月にかけて、福島県老人クラブ連合会の被災された皆さんに手づくりの「元気うちわ」1,500 本を届けた。

「元気うちわ」は兵庫県下 38 市町老人クラブ連合会の皆さんから協力頂いたもので、それぞれに絵・書・ちぎり絵等で工夫をこらし、メッセージを添えた。



③ そよ風をうけて素敵にまわる風鈴を贈る！

加西市老連東横田老人クラブの山本六良太夫様から手づくりの風鈴 100 個を震災被災地支援に役立たせてほしいと寄贈があり、平成 25 年 7 月 11 日に岩手県釜石市老人クラブ連合会に贈った。

④ 被災地へ出向き視察交流を図る！



ふれあい・交流の旅は、平成 25 年 9 月 29 日(日)～10 月 2 日(水)の 3 泊 4 日で、東北被災地視察交流を取り入れた旅を実施し、24 名が参加し、宮城県岩沼市と気仙沼市と気仙沼市老連を訪問した。9 月 29 日(日)、仙台空港近くの仮設住宅が隣接している岩沼市総合福祉センターに立ち寄り、岩沼市老連会長や副会長・女性部長の出迎えを受け、県老連から仮設住宅入居高齢者にホカホカカイロ

岩沼市老連の皆さんに支援の品を渡す。500 枚と水仙の球根などを手渡した。

9月30日は、気仙沼市老連との交流の前に、気仙沼市老連事務局長の案内で、被災地を視察しながら被災状況の説明を受け、その後、気仙沼市中央公民館において市老連会長・副会長や被災者等と昼食を共にしながら交流を図った。

また、仮設住宅入居者に持参した善哉の一部を使い、気仙沼市老連役員や被災者と一緒につくり、参加者に振る舞った。



交流の中で、気仙沼市老連副会長が作成された大震災時の浸水マップや老人クラブの今の現状等の説明や、芦屋市老連の青山氏からお土産のコサージュのつくり方等を披露されたり、有意義な1日を過ごした。

⑤ 寒い冬にむけて着物を再利用した甚平を贈る！

尼崎市開明老連は、半天（甚平）づくりで東北支援をしようと、「お針っ子サークル」を結成し、月2回着物や羽織をほどき、洗ったり、アイロンがけをしたりして着物を再利用して頑張り、出来上がりの品は、被災地支援のチャリティーバザーで販売したり、被災地に贈り喜ばれた。11月に甚平31枚とハンカチや毛糸で編んだ幸せの蝶々のアクセサリーの入った巾着袋を岩手県宮古市老連に贈り、宮古市老連では、友愛訪問の際のプレゼントとして大変喜ばれた。

⑥ 阪神南ふれあいフェスティバル・ふれあいの祭典～ひょうご健康福祉まつり～において東日本大震災被災地支援チャリティーバザーの実施！

平成25年11月2(土)～3(日)に尼崎の森中央緑地で開催された。

「東日本大震災支援、みんなで参加して応援しよう！」のテーマで、各市町老人クラブ連合会から提供していただいた商品を販売したチャリティーバザーやニュースポーツのグラウンド・ゴルフでホールインワンしよう！、子ども向けにスーパーボールと人形すくいや風船で花や動物づくり等、来訪の大人も子どもにも喜ばれ、2日間で延べ2,000人の来訪があった。

- ・ バザー商品は37市町老連等より提供(3,041点)
(タオル・バスタオル・洗剤・衣類・バッグ類・食器・新米・リンゴ等々)
- ・ バザー売上金額 556,668円(売上金額は、グラウンドゴルフ大会・健康ウォークラリー講習会場等の売上も含む)
- ・ バザー売上金額は、支援関係所要経費に使い、一部は義援金として被災地に贈った。



⑦ 「感謝袋」に対して年賀状でお礼！

福島県内の59市町老連の女性会員から、これまでの東日本大震災被災地支援に対し、お礼の心の寄せ書きを同封し、感謝の意がこめられた手づくりの「感謝袋」250個が届き、各市町老連に届けた。

そのお礼に、女性・若手委員が中心になり、市町老連の協力により250枚の年賀状を福島県老人クラブの皆様へ送付した。



⑧ バザーを開催して震災被災地支援

芦屋市浜町寿楽会では、ボランティア活動の一環として、バザーを11月1・2日に開催

「ご家庭で不要のお宝ありませんか？」と呼びかけて、集めた品を安価で販売し、売上金は被災地支援に活用した。

震災直後の「元気袋」の支援から交流が続いている宮城県石巻市老連へ12月にお正月のお餅等に役立たせてほしいと売上金の一部35,250円を贈り喜ばれた。

⑨ 平成25年度義援金募集の取組み

各市町老連から982,567円もの協力を頂いた。

平成26年2月3日(月)福島県老人クラブ連合会を訪れ、県老連田中会長より東日本大震災の被災者やクラブ再建に使ってほしいと義援金100万円を福島県老連渡部会長に届けた。これは、各市町老人クラブ連合会から協力頂いた義援金と、チャリティーバザーの売上金の一部を併せたものである。

⑩ 東日本大震災支援活動に対する厚生労働大臣感謝状の贈呈

平成23年3月11日の発生から3年が経過したが、甚大な被害を受けた被災地ではいまだに多くの方が避難生活を余儀なくされている。震災直後にも義援金や生活物資等の支援をしたが、その後も引き続き義援金や四季折々に手づくり品など多種多様な支援活動を行っている。このたび、芦屋市老連と南あわじ市老連が、平成24年2月に宮城県石巻市老連の被災者19名を招待し、心の癒しや元気回復の一助になればとの思いで交流を深め、その後においても引き続き義援金や生活物資等の支援活動に対し、平成24年の県老連に引き続き、厚生労働大臣から「甚大な被害を受けた被災者に対し惜しみない支援に努められ、その功績は多大である。」と、大震災発生日の3月11日付で感謝状が贈呈された。

5 会の運営

(1) 役員会の開催

① 評議員会

第1回 平成25年5月31日(金) 兵庫県民会館

- ・理事の選任について
- ・評議員の選任について
- ・平成24年度事業報告について
- ・平成24年度収支決算報告について
- ・協議及び報告事項等 24件

第2回 平成26年3月5日(水) 兵庫県民会館

- ・平成25年度収支補正予算について
- ・平成26年度事業計画について
- ・平成26年度収支予算について
- ・報告事項 12件

② 理事会

第1回 平成25年5月15日(水) 兵庫県民会館

- ・平成24年度事業報告について
- ・平成24年度収支決算報告について
- ・評議員及び理事等役員選任規程について
- ・副会長(欠員補充1名)の選任について
- ・平成25年度第1回評議員会の開催日程について
- ・協議及び報告事項 23件

第2回 平成25年7月12日(金) 兵庫県民会館

- ・平成25年度兵庫県老人クラブ連合会会長表彰・感謝及び仲間づくり賞報奨金贈呈候補について
- ・協議及び報告事項 9件

第3回 平成25年12月18日(水) 兵庫県民会館

- ・協議及び報告事項の平成26年度事業計画(案)についてほか8件

第4回 平成26年2月17日(月) 兵庫県民会館

- ・平成25年度収支補正予算について
- ・平成26年度事業計画について
- ・平成26年度収支予算について
- ・平成25年度第2回評議員会の開催について
- ・協議及び報告事項 10件

③ 監事会

平成25年5月10日(金)・16日(木) 兵庫県民会館

- ・平成24年度事業報告及び平成24年度収支決算報告等についての監査

④ 正副会長会

5回開催し、県老連の事業運営を円滑に推進させるため、理事会及び評議員会に提案予定の重要案件等の内容についての事前検討・協議をはじめ、日常業務に関する事項を適切に運営に反映させるための方針や業務執行の決定等の検討・協議などを行った。

⑤ 部会

総務財政部会(3回)、調査広報部会(3回)、企画事業部会(3回)をそれぞれ開催し、県老連の総務財政の運営、調査と研究、広報活動、事業の企画全般と実施推進などについて検討・協議などを行った。

⑥ 委員会

女性委員会(1回)、若手委員会(1回)及び女性・若手合同委員会(3回)をそれぞれ開催し、女性の老人クラブ活動への企画運営などの積極的な参画や女性の特性を活かした活動の推進及び若手会員の斬新な発想を生かした老人クラブ活動の総合的かつ効果的な事業の推進等について検討・協議などを行った。

(2) ブロック・市町老連事務局長・担当者会議の開催

- 開催日 平成26年2月21日(金)
- 開催場所 兵庫県民会館
- 参加者数 38名

○ 内 容

- ・行政説明「平成 26 年度老人クラブ活動促進事業について」県高齢社会課主幹
- ・平成 26 年度県老連関係事業等の推進について 県老連事務局長
- ・意見交換、質疑応答等

(3) 表彰・感謝

① 平成 25 年 9 月 20 日(金)に、兵庫県公館にて開催した「平成 25 年度兵庫県高齢者の集い」の第 1 部式典において、下記の表彰(感謝)を行った。

○ 兵庫県知事表彰

- <1> 老人クラブ育成功労者 39 名
- <2> 優良老人クラブ 15 クラブ

○ 県老連会長表彰

- <1> 老人クラブ育成功労者 203 名
- <2> 優良老人クラブ 24 クラブ
- <3> 優良市・町老人クラブ連合会 6 団体
- <4> 仲間づくり優良老人クラブ、仲間づくり優良市・町クラブ連合会
13 団体
- <5> 永年勤続職員 4 名

○ 県老連会長感謝(協力団体) 1 団体

○ 伝 達

全国老人クラブ連合会「活動賞」

- <1> 仲間づくり活動部門 東南友愛クラブ(芦屋市)
清和台いきいき元気クラブ(川西市)
高砂市老人クラブ連合会
- <2> 健康づくり活動部門 豊岡市日高町老人クラブ連合会
笠屋ほのぼの会(加西市)
太子町老人クラブ連合会、
- <3> ボランティア活動部門 高年クラブ藤が丘寿会(明石市)
西脇市老人クラブ連合会
山崎支部老人クラブ連合会女性部(宍粟市)

② 全国老人クラブ連合会会長表彰

平成 25 年 10 月 2 日、岩手県盛岡市の岩手県民会館で開催された第 42 回全国老人クラブ大会において表彰された。

全国老人クラブ連合会会長表彰

- <1> 老人クラブ育成功労者表彰 谷内 豊(明石市)、下房正英(相生市)、
谷本幸子(赤穂市)、伊藤 隆(高砂市)
- <2> 優良老人クラブ・優良 加西市老人クラブ連合会
市町老人クラブ連合会 丹波市老人クラブ連合会春日支部
播磨町シニアクラブ連合会
香美町老人クラブ連合会香住支部
- <3> 永年勤続職員 県老連事務局 山口 真紀

③ 東日本大震災支援活動に対する厚生労働大臣感謝状の贈呈(再掲)

芦屋市老連と南あわじ市老連が、宮城県石巻市老連の被災者を招待し、交流を深めるなどの支援等に対し、厚生労働大臣から、震災発生日の3月11日付で感謝状が贈呈された。

(4) 関係機関・団体との連携

- ① 全国老人クラブ連合会、近畿老人クラブ連絡協議会、都道府県・指定都市老連との連携を密にし、事業の展開を図った。
- ② 兵庫県健康福祉部をはじめ、(社福)兵庫県社会福祉協議会、(公財)兵庫県生きがい創造協会等福祉関係行政機関・団体と連絡・協調し、事業の円滑な展開を図った。
- ③ 予算確保要望の推進(県・県議会)

ア、平成25年9月20日(金)「平成25年度兵庫県高齢者の集い」の開催前に、兵庫県公館において、県老連正副会長が出席し、柏 社会福祉局長に対し、老人クラブ活動に関する平成26年度兵庫県予算編成について、井戸知事あてに次の4項目の内容の要望を行った。

- 1) 単位老人クラブ及び市町老人クラブ連合会が行う諸活動に対する助成
- 2) 単位老人クラブが行う子育て支援、地域における見守り活動に対する助成
- 3) 市町老人クラブ連合会及び県老人クラブ連合会が行う健康づくり・介護予防活動に対する助成
- 4) 県老人クラブ連合会が行う高齢者のための事業や市町老人クラブ連合会会長等の研修会に対する助成

イ、平成25年6月27日、26年3月17日に、県議会自民党議員団に対しても、県と同様の内容で要望及び意見交換等を行った。

ウ、兵庫県知事と県老連幹部との懇談会

平成25年12月11日(水)に兵庫県公館において、知事、健康福祉部長他県幹部と県老連役員との懇談会を開催し、各ブロック代表の会長、女性・若手委員会委員長から各地域や県老連における活動状況等の報告に対し、知事からの地域貢献活動の取り組みへの謝



辞や助言等もあり、今後とも老人クラブ活動に対する更なる支援についても要望した。また、11月に提案された第3次行革プラン〔第3次行財政構造改革推進方策〕(企画部会案)の「老人クラブ活動強化事業補助金(県単独助成)の減額見直し案」に対し、成案の策定にあたり、格別の配慮を賜るよう、要望書を知事に手渡した。

(5) 老人クラブ傷害保険への加入促進

活動中や日常生活の中で会員の万一の事故に備えた「老人クラブ傷害保険」の普及促進を図るとともに、加入促進に顕著な功績をあげた4市町老連に報奨金を贈呈した。

〈報奨金贈呈市町老連〉 西脇市、小野市、養父市、洲本市

* 平成26年3月末現在の保険加入状況

- | | | | | | |
|---------|----------|-------|----------|------|------|
| ・全体クラブ数 | 3,913クラブ | ・会員数 | 236,185名 | | |
| ・加入クラブ数 | 916クラブ | ・加入者数 | 19,277名 | ・加入率 | 8.2% |

6 その他

○ 第3次行財政構造改革推進方策<<第3次行革プラン>>

現行の子育て支援活動・高齢者見守り活動に対する県単独補助事業の「老人クラブ活動強化推進事業」の補助単価及び補助対象が見直された。

- ・ 子育て支援活動・高齢者見守り活動を実施する老人クラブ
(市町老連に加盟の単位老人クラブ)
月額 4,400円 ⇒ 月額 3,500円 △900円
- ・ ㊦健康づくり(健康体操等)の実施・普及促進活動を実施する老人クラブ
(県老連傘下の単位老人クラブ)
月額 500円
- ・ 助成事業見直しの実施時期は、平成26年度から

* 国庫補助事業の学習活動、リーダー研修等は、全単位老人クラブに、
月額 3,500円(従来どおり)